

台風時の対応について

近年、地球温暖化により台風の多発と大型化が深刻な問題となっており、昨年には台風19号が猛威を振るい、東京でも多くの交通機関が停止し、多摩川が氾濫するなどの被害をもたらしました。

今年は、新型コロナウイルス感染対策も視野に在宅避難も避難方法の1つとして考え、台風被害を最小限に抑えるために、以下を参考にして台風に備えましょう。

また、台風直前の備えは、物資の入手が困難になる可能性が高いため早めに準備しましょう。

1. 在宅避難について

避難先は、公共施設等がありますが、在宅避難が望ましい場合があります。

(1) 在宅避難が望ましい場合

- ①ハザードマップで危険地域に該当しない場合。
- ②マンション・アパートの高層に居住している場合。
- ③戸建ての場合、2階以上に避難できる場合。
※②、③は、ハザードマップで浸水深を必ず確認しましょう。
- ④新型コロナウイルスで重症化しやすい方がいる場合。
(高齢者、持病を持っている方)

(2) 施設等への避難が望ましい場合

- ①ハザードマップで危険地域に該当する場合。
- ②危険地域外でも自宅付近に斜面・崖がある場合。
- ③マンション・アパートで浸水する高さに居住している場合。
※ハザードマップで浸水深を必ず確認しましょう。
※避難先は、公共施設だけでなく、安全な親戚宅や知人宅に避難することも検討しましょう。



2. 浸水・断水・停電対策について

(1) 浸水対策

水嚢を置くことで水害対策になりますが、浸水被害は玄関だけでなく、トイレやお風呂場から水が逆流することでも発生します。

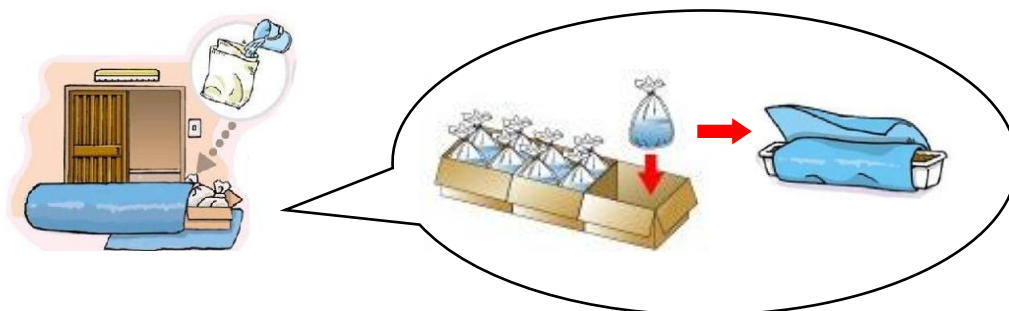
水嚢は、袋を置く方法以外にも様々な方法があるので、参考にしてください。

※土嚢でも水嚢と同様に使用できますが、水嚢のほうが自宅で簡単に作成できるためおススメです。

①玄関に水嚢を置く

・段ボール・プランターを使った方法

ごみ袋を二重にして水を半分ほど入れて結び、作成した水嚢を段ボール又はプランターにつめた後、レジャーシートで包みます。



・板を使った方法

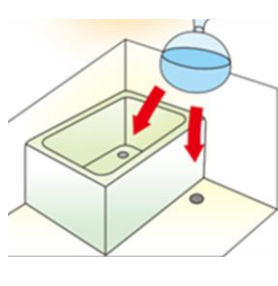
作成した水嚢を、ボード等の板の両端に置きましょう。



②トイレ・お風呂場・洗濯機等に水嚢を置く。

集中豪雨の際、トイレやお風呂場の排水管から、逆流が起こり浸水を引き起こすことがあります。

水嚢を作成し、便器内・排水溝口に置きましょう。



(2) 断水対策

①浴槽に水を貯める。

飲料水用としてではなく、トイレを流す用等の生活用水として備えましょう。

※飲料水は、ホームセンター等でペットボトルを購入しましょう。

②給水タンク・給水バッグを用意する。

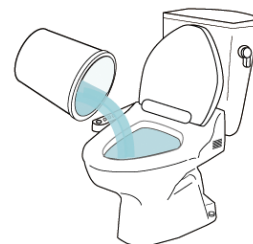


※お住まいのマンションやアパートの給水ポンプが「直結直圧式（電気を利用してポンプの圧力で水を送る）」の場合は、停電時に断水するため注意しましょう。

断水時のトイレの流し方（和式・洋式、同じ方法です）

断水した場合、普段使用しているトイレの水が流れなくなってしまうので、生活用水を使用して流す方法をお伝えします。

- ①バケツ等に5～6リットル水を用意する。
- ②便器内に短時間で少し高い位置から勢いよく流しこむ。
- ③流した後、3リットルほどゆっくりと便器内に流す。



※周囲に飛び散らないように新聞紙等を敷いておきましょう。

※水の使用量が気になる場合は、**簡易トイレ**を用意しましょう。

※タンクに補水して流す方法は、故障につながる為やめましょう。

(3) 停電対策

①クーラーボックスの活用

冷蔵庫の中の物を保冷剤と一緒に一時的に入れておく。

※冷蔵庫内の冷気は、停電後も数時間は保たれますが、開閉するたびに冷気が逃げ、冷蔵庫内の温度が上昇するので注意しましょう。

②暑さ対策

扇風機や空調機が使用できないことを想定して、うちわ、扇子等を用意しておきましょう。

③懐中電灯・ランタン、ライター等の着火用品

暗い部屋を移動する場合や、ガスが停止した場合に備えましょう。

④モバイルバッテリー・電池等

スマホ等のバッテリー切れ対策として用意しましょう。



停電時の対応と電気復旧時の注意点

○停電時の対応

浸水時に停電が起きた場合はブレーカーを落とし、各電源プラグからコンセントを抜いておきましょう。

電気が復旧し、通電した際に通電災害（電気の復旧による災害）が起こる場合があります。

○電気復旧時の注意点

浸水が収まった後、ブレーカーを戻す場合は、次の点を必ず確認しましょう。

①家屋の被害状況を確認する。

浸水がしっかり収まっているか確認しましょう。

また、家屋の被害状況によっては、電源配線が壁内で破損している可能性があり、通電火災が発生する恐れがあるため、ブレーカーを戻す前に専門機関に確認してもらいましょう。

②家電製品・電源プラグの使用は、しっかり乾いているか、また周囲に燃えやすいものがないか確認しましょう。

電気が正常に復旧したと思われても、家電製品をすぐ使用することは控えましょう。

※壁内の電気配線・家電製品内の破損による火災は、通電後に時間がたってから発生する場合があります。

煙の発生等、異常が見られたら、すぐブレーカーを落とし、消防機関に連絡してください。

(4) その他

ハザードマップを入手・確認しましょう。

※ハザードマップは、各自治体のHPで確認することができます。

ネット環境がない場合は、各役所の窓口で入手しましょう。



3. 出勤日に台風が来た場合

身の安全を確保したうえで、就業先に連絡をして指示を仰ぎましょう。

就業先に連絡後、落ち着いてからでかまいませんので、(株)TSOにも連絡をしましょう。

(株)TSO への連絡先

本社	03-3449-5506	(平日 9:00~17:30)
米橋 携帯	070-1524-5345	
加藤 携帯	080-4299-4754	

在宅避難のために備えておきたい非常用品

台風の水害等によりライフラインが停止すると、電気の復旧は約1週間、水道の復旧は約3週間かかるとされています。

在宅避難の場合は、特にライフラインが復旧するまで過ごせる非常用品を備えておきましょう。

○在宅避難のための非常用品一覧

【食事編】

- ①水・・・最低1人3L。
- ②非常食・・・保存期間が長く火を通さなくても食べられる食品が望ましい。
- ③紙食器類・・・食料を小分けにするために使用する。
- ④食器用ラップ・・・紙食器類を再利用するために使用する。



【生活用品編】

- ①灯り・・・懐中電灯、ランタン 等。
- ②ガスコンロ・・・最低1週間分用意する。
- ③モバイルバッテリー・・・満タンにして複数用意しておく。
- ④水のいらないシャンプー・・・衛生面の確保に加え、節水に有効。
- ⑤防寒具・・・保温シート、レインコート 等。
- ⑥医薬品・・・常備薬、絆創膏、消毒液、持病薬 等。
- ⑦貴重品・・・現金、身分証、印鑑、保険証 等。
- ⑧長靴、手袋・・・移動や負傷防止に備える。
- ⑨ビニール袋・・・物資の防水対策、収納等として使用する。
- ⑩簡易トイレ・・・断水に備えておくと便利。
ホームセンターで購入できます。



【新型コロナウイルス対策編】

- ①マスク・・・枚数は、余分に用意しましょう。
- ②体温計・・・在宅避難中も、体調管理は行いましょう。
- ③消毒液・・・手の消毒用、居住スペースの清掃用など用意しましょう。

※避難施設に避難する場合も、用意する物は同じです。

最初の避難時に全て持っていくのではなく、複数回に分けて持っていけるように、持ち出しやすい形にまとめておきましょう。